

2. 大竹市が抱える現況・課題

2-1 立地適正化計画により解決すべき課題

立地適正化計画により解決すべき課題を以下に示します。

(1) 都市機能の適正配置

大竹市の人口は昭和 50（1975）年以降、減少傾向となっており、令和 27（2045）年には 20,000 人を下回る予測となっています。

今後、人口減少が進行することで、財政の悪化が見込まれます。そのような中で必要以上の公共施設の維持・運営を行うことは、財政のさらなる圧迫につながり、健全な都市運営が困難となってしまいます。また、人口規模に見合わない市街地の肥大化や、生活利便施設の無秩序な立地は、日常生活サービス施設の不足や、安定した医療サービスの享受の困難へとつながってしまいます。

そこで、地域ごとの特性を活かしながら医療施設・商業施設・福祉施設等の適切な施設配置を行い、将来的なまちの発展につなげる必要があります。



出典：国勢調査（総務省統計局、昭和 45 年～平成 27 年）

日本の地域別将来推計人口（平成 30 年推計）（国立社会保障・人口問題研究所、令和 2 年～令和 27 年）

図 2-1 人口の推移

(2) 連続性・持続性のある公共交通ネットワーク

大竹・栗谷線、坂上線、こいこいバスの近年の利用者数、収支率をみると、ともに減少傾向にあります。乗合タクシーの利用者数、収支率においても、横ばいあるいは減少しているものが多いです。今後、人口減少によりさらなる利用者の減少が予想されることか

ら、効率的な事業運営を行い、持続性のある公共交通ネットワークを構築する必要があります。

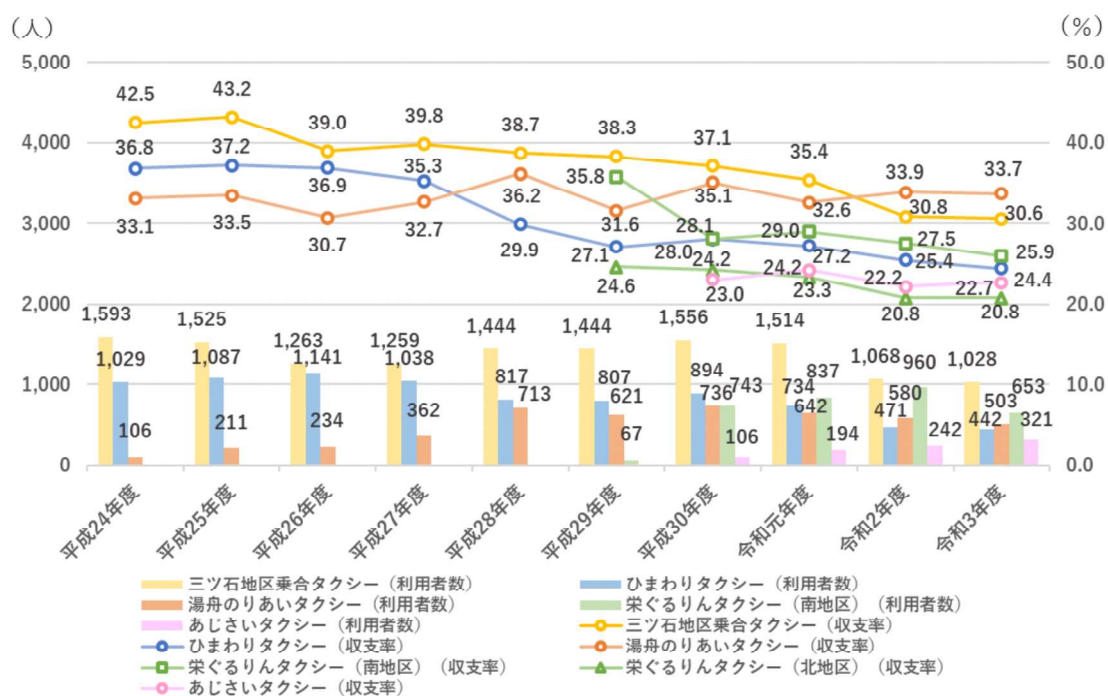


図 2-2 公共交通の運行状況



出典：大竹市地域公共交通活性化協議会資料（大竹市、平成 25 年度～令和 4 年度）

図 2-3 路線バスの利用者数・収支率の状況

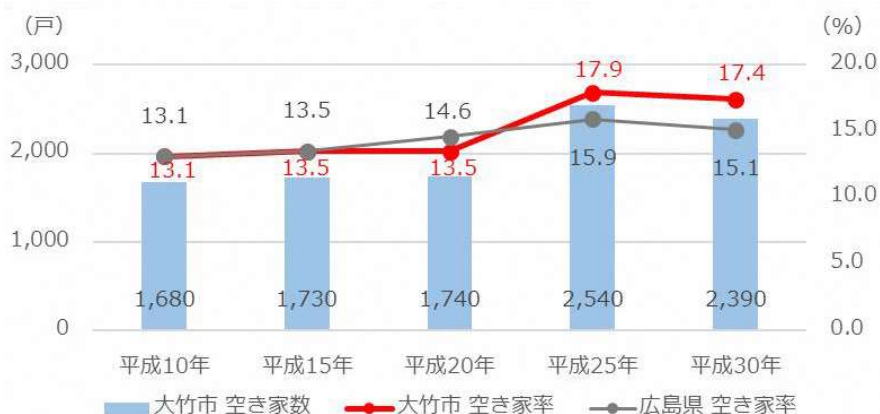


出典：大竹市地域公共交通活性化協議会資料（大竹市、平成 25 年度～令和 4 年度）

図 2-4 乗合タクシーの利用者数・収支率の状況

(3) 快適な生活

コミュニティの維持を図るとともに、生活利便性が高く、誰もが住みやすい居住空間を形成する必要があります。そのためには、生活利便施設の適切な配置を行うとともに、都市の景観悪化や魅力低下につながる空き家の抑制を行うことが重要です。若者世代の転出を防ぎ、子育て世代の定住を促進し、高齢者世代が住みよい環境をつくることを目指します。



出典：住宅・土地統計調査（総務省統計局、平成 10 年～平成 30 年）

図 2-5 空き家数・空き家率の推移

(4) 安全・安心な都市環境

市街地の西側および山間地域を中心に、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）に指定されています。大竹駅周辺の市街地は、広範囲が津波浸水深 2m 以上となることが想定されています。近年の激甚化する自然災害に対応するため、災害に強い環境整備を行う必要があります。

また、ユニバーサルデザイン等の取組みを進め、誰もが快適なまちづくりを行う必要があります。



出典：国土数値情報（国土交通省、津波：平成 28 年 土砂災害：令和 2 年）

図 2-6 高災害リスクエリア